

平成29年白老町議会産業厚生常任委員会協議会会議録

平成29年 2月13日（月曜日）

開 会 午後 3時50分

閉 会 午後 4時12分

○会議に付した事件

1. 白老町営牧野管理条例の一部改正について
-

○出席議員（5名）

委員長	広地紀彰君	副委員長	本間広朗君
委員	氏家裕治君	委員	森哲也君
委員	山田和子君		

○欠席議員（1名）

委員 松田謙吾君

○説明のため出席した者の職氏名

農林水産課長	本間力君
農林水産課主幹	池田誠君

○職務のため出席した事務局職員

主査	増田宏仁君
書記	葉廣照美君

◎開会の宣告

○委員長（広地紀彰君） ただいまから白老町議会産業厚生常任委員会協議会を開会いたします。

（午後 3時50分）

○委員長（広地紀彰君） 白老町町営牧野管理条例の一部改正について、担当からまず説明を求めます。

本間農林水産課長。

○農林水産課長（本間 力君） まず、資料の説明に入る前に、平成26年9月に起きました大雨災害の影響から、この3つの牧場のほうが2カ所ほど今現在も通路等の決壊におきまして休止状態にあります。この間、農家のほうからも利用の要望等を受けまして、私どもとしても最大限利用促進を図らなければいけない観点から、平成28年度関係者と協議を進めていた状況でございます。本日は若干その経過と、抜本的な対策まではなかなか至りませんが、当面の取り組み、方向性を今回お話しさせていただきまして、進めさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。資料のほうは担当から説明させていただきます。

○委員長（広地紀彰君） 池田主幹。

○農林水産課主幹（池田 誠君） それでは、私のほうから今回お配りしています一部改正についてということで、括弧書きで町営牧野管理に係る今後の方向性という資料があるかと思えます。そちらのほうを主に説明させていただきたいと思えます。

表紙めくっていただきまして、1枚目からご覧いただきたいと思えます。簡単に町営牧野の目的を記載しております。畜産振興の基盤の確立を図り、もって農業経営の安定に寄与するためということで、町営牧野を設置しているところですが、現状では利用頭数が年々減少していることと、課長からご説明しましたとおり、26年に大規模な災害に見舞われた経過から、現状と課題を検証しまして、今後の町営牧野のあり方について27年度より関係者と協議を本格化してきたところでございます。

1番の利用実績についてです。こちらにつきましては、平成26年度をベースにしてございまして、27年度以降、利用が極東牧場のみとなっておりますので、26年度をベースとさせていただきます。26年度の利用実績につきましては、延べ9,698頭が放牧の実績となっております。そのうち町営の3牧場、極東が3戸の方が放牧しております。ヨコシベツ1戸、石山1戸ということで、26年度は合計5戸の農家さんが放牧をしているところでございます。

これに比較しまして過去5カ年間の推移というのが2番目に記載されております。平成22年度におきましては、延べ2万4,868頭。これが5年経過しました平成26年度で9,698頭。5年前と比較して1万5,000頭も放牧頭数が減っている傾向にあります。それで、22年度当初は利用が8戸ございました。これにつきましても、5戸ということなので3戸の方が放牧を辞めているという現状でございます。

これを踏まえて、2番目として現状と課題についてということで調べてきた現状が、まず1

番目となります。本町の町営牧野管理につきましては、条例及び規則に基づきまして、上記3牧場の管理を苫小牧広域農協白老支所に委託し運営しているところでございます。町営牧野の委託事業の財源としては、町営牧野利用料を徴収しております。直近5カ年の利用実績については上記のとおりと、あと添付している資料2というものがあるのですが、こちらのほうを見ていただければ、上の段のほうに各3牧場の22年度から26年度までの放牧戸数と述べの頭数が記載されております。費用実績というところの1番目の収入、1項目めの放牧料というところが、町営牧場の管理業務の委託料分ということで1頭当たり現状100円ということで放牧料としていただいております。それ以外に利用者の負担金を徴収しまして、主な支出としましては、ここ数年は肥料代を支出しているような感じとなっております。

戻っていただきまして、資料をもう1枚めくっていただきまして、2番目の課題というところに移っていきます。まず(1)としまして、中山間地域の直接支払い交付金の終了ということで、国の事業で中山間地域の直接支払い交付金というのを平成22年度から26年度まで5カ年活用しております。さかのぼりますと15年間、この制度を活用して補助金をいただきながら、中段に書いております作業道の維持管理、肥料の散布の人夫賃、あと牧柵修繕とワクチン等の疾病対策の事業を進めてきております。本来であれば、新たな利用者を募りまして、この事業を継続しながら公共牧野の管理を推進すべきというところではあったのですが、この部分につきましては、平成26年度の会計検査の中でいろいろと指摘を受けております。その大きな理由としては、下記の理由によるというところの①番、中山間地事業の採択要件である傾斜地の現状が飼料畑となっていない。これは何のことかといいますと、傾斜地をそのまま放牧地として使っている、そういう状態になっているからこそ補助金を受けられていたのですが、徐々に放牧頭数が減ってきているので、当然利用頭数が減ってくると平地のほうに牛が集まりまして、それで傾斜地のほうがどんどん雑木林みたいになってきている現状になっております。この関係で会計検査院が現地に入られるとちょっと厳しいのではないかとということで、北海道のほうから指摘を受けまして、面積を変えるか放牧利用頭数を促進して再度利活用するかということだったので、今現状の部分でまた面積を確定するためのコンサル料とかが相当かかりますし、放牧利用を急にまた2万頭と3万頭とふやすというのは現実的に難しいというところで、26年度までの補助事業をもって一度取りやめております。それ以外の補完する新たな交付金も活用しようというところで探してはいるのですが、なかなかその活用できそうな補助メニューというのが中山間地以外にないというのが現状の課題でございます。

続きまして、(2)として大雨による被害ということで、こちらは先ほどもお話ししたとおり、26年の9月に豪雨がございまして、添付している写真の資料がありますのでご覧いただければと思うのですが、当時の災害につきましては、畜産農家さんを最優先として対応させていただいた経緯があります。この中で石山とヨコシベツの2牧場が、作業路に大規模な被害を受けております。本場に入るまでに相当作業路が崩れておりまして、がけ崩れとかも散見されております。石山牧場につきましては、1番奥のほうまで行ったのですが、その途中の道がほぼ壊滅状態になっております。当時ざっくりとした見積もりをいただいているのですが、やはり500万ぐらいかかるということと、あと相当数の土砂が入ってきておりますので、牧柵とか

をある程度直すとなると、恐らく1牧場あたり1,000万円程度の修繕費がかかりそうだということでございます。また、ヨコシベツ牧場につきましては、まず白老川をマルトラさんのプラントから奥に入る仮橋が、そこ自体も今損壊しているような状況で、対岸に渡れないような状況になっておりまして、実際に本場のほうまではなかなか調査しきれっていないのが現状です。こゝとした牧場の中を確認しまして、全体の把握に努めたいと思っておりますけれども、今現状こういう被害状況のままということになってございます。

続きまして、(3)の利用頭数の減少ですけれども、先ほどご説明したとおり、この5年間で1万5,000頭余り減少しております。26年度に至っては、延べ頭数で1万頭を割る状況になっております。このことから、災害を受けた今の2牧場の復旧に費用を投資するよりも、公共牧場の機能を集約する方法が得策ではないかという考えに立ちまして、集約の手法も含めて関係者と協議、検討を重ねてきたところでございます。農協と利用者との協議等につきましては、平成27年の5月頃から内部調査を進めまして、昨年 of 年末までいろいろと内容等を詰めさせていただいております。

続きまして、4番の飼養頭数との関係ということで、こちらのほうも別添の資料1というのをつけさせていただいております。放牧頭数に対して各利用者の農家さんの飼養頭数が減っているわけではないということは、ご覧いただいた中でご理解いただければと思います。となると、公共牧場で放牧する際に、放牧するメリットとか、そういう優位性があるのかなのかというのは、その放牧している方とか、これから利用されたい方の話を聞かないとだめだという原点に立ち返りまして、利用者と未利用者も含めまして放牧の利用促進策を聞き取りまして、次のとおり今後の方向性を取りまとめたところでございます。

3の今後の方向性案及び協議事項についてというところです。まず1つにつきましては、町営牧野の集約ということで、現状で1番環境の整っている、衛生センターの奥にあります極東牧場に公共牧場の機能として集約したいと考えております。また、機能集約に向けて施設の環境面、草地の更新等の改善点もございましたので、その辺を関係者と協議しました。まず(1)につきましては、肥料代とか簡易修繕にかかる費用というのは、今まで補助金とかそういうものが充てられていた部分はあるのですが、今必要な部分は、個人負担とその利用料の中で賄っていただいておりますので、この費用につきましては、町の予算としてまず固定化しますということで話を進めております。(2)番として、事故等の防止の観点から管理人を新設することにしていきます。こちらにつきましては、昨年も牛肉まつりの時期に2回ほど町営牧場に放牧している牛が逃げてきてまして、原因としては山菜取りの方がゲートを開けたままにしていたということと、過去にゲートの鍵自体も壊されるという被害があって、ゲートの施錠をきちんと南京錠とかをしなかったのです。鎖できちんと外れないようにはしていたのですが、それを山菜取りの人が開け放しにすることによって何度かちょっと逃げて、脱走してしまって、付近の方に迷惑をかけたという部分があります。あと病気とか分娩とか事故の観点もありますので、近隣の苫小牧市さんも管理人を設置しているという状況もありましたので、こちらのほうを新規で設置したいと考えております。それに伴いまして、(3)放牧料については、新たな町負担に伴い見直しをするということで利用者との話は進めてございます。計画的な草

地改良も進めていくということで、やはり、いい草を育てていかないといい牛は育たないというのは議会のほうからもいろいろお話いただいているところなので、こちらにつきましても計画的な改良は進めていくということで利用者さんとも話を進めております。

2番目に、今利用されてない石山牧場、ヨコシベツ牧場の利活用につきましては、今現状このような写真の状態にはなっております。ただ、今極東牧場の機能集約が、利用促進が図れるような状態になれば、当然こちらの残りの2つの牧場につきましても、ある程度利活用を含めて検討しないとしないのかなとは考えております。現状27年度から、両方とも27年度以降休止状態としてございますので、こちらは今年度の新規の利用の状況を見ながら再度検討していきたいと考えております。

最後に3番目、放牧料等の費用負担の考えについてであります。こちらは、白老町営牧野の管理条例の施行規則の中に草量の維持管理というところの部分がありまして、融雪直後に肥料を撒いて、放牧期間中の追肥を行うということを必須としております。これは、公共牧場の利用料を主財源として、不足する部分については自己負担という対応を今までできてきてございます。今後、中山間地事業がないので、それに見合うような事業とか管理人とか、その辺の部分を町費で新たに設けるということを利用者の中で合意してきた経過ですので、放牧料が今1日当たり100円という仕切りになっているものですから、ここの部分の見直しについても関係者と協議してきたところでございます。一応、農家さんの話でいきますと、見直しの方向で了解をいただいているところなので、今後ご提案の流れになってくるかと思っております。参考までに、今自家使用している場合、自分の牛舎の中で放牧しないで育てる場合でありますと、1日当たり草と配合資料で310円かかると、単純計算ですけど言われています。近隣の参考なのですが、苫小牧市、市内の農家さんの受け入れが90円で市外の受け入れが180円。伊達市さんが260円、市外受け入れが290円、安平町さんが270円の町内受け入れで町外が324円。これは管理の状態とか肥料のかけ方によってちょっとばらつきはあるのかと思うのですが、おおむね放牧料を今の現行の料金より倍の金額で調整したいと考えてございます。以上、今後の方向性について説明を終わらせていただきます。

○委員長（広地紀彰君） よろしいですか。それでは、委員各位のほうからの質問、意見等を受けます。何かございます方どうぞ。おおむね理解はできたということではありますか。よろしいですか。

1点だけ、極東牧場の集約を図ってきて、基本的な考え方は理解できたのですが、この極東牧場の受け入れの可能頭数、延べ頭数でどれぐらいの容量的な部分はどうですか。

池田主幹。

○農林水産課主幹（池田 誠君） 資料としてお渡しはしていませんのですが、規則の中で極東牧場の1日の任用頭数というのが430頭です。極東牧場が沢2つ跨いで放牧場が2カ所あるような形になっています。今、1カ所が2年間利用実績がない状態です。極東は今3戸の方が放牧しているのですが、大体今1日当たりの放牧頭数で延べではなくて、一日の放牧頭数でいきますと42、3頭ほどなのです。ですから、今放牧しているほうの場所で大体50頭くらいはマックスいける。今の草地の現状からいきましても50頭で、目標としては100頭近くを放牧

できるのが1番望ましいかと考えております。

○委員長（広地紀彰君） そうしたら、今現状の使用頭数の関係でいけば、十分に余力をもってという対応ができるということですね。

本間課長。

○農林水産課長（本間 力君） 今、池田主幹のほうから話したとおりで、極東牧場のキャパを想定しましても、まだまだ利用状態は確保できると。ただ、これも従前のやり方を見ますと、当然のことながら段階を踏んでいきますと、この極東牧場だけでは納まらない可能性はあります。それには、農家さん方の利用者ニーズの有効利用をきちんと徹底すべきというところから段階的に取り組ませていただきたいないうところで思っています。当然、このことには石山、ヨコシベツのほうの、先ほど来から言っていますとおり、費用負担がかなりかかるという想定でございますので、そういった場面はまたきちんとした利用計画をこの場面、議会等でもお諮りしながら進めていきたいということで、まずもって極東牧場の利用促進を図っていきたいということでご理解いただきたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） わかりました。それではよろしいでしょうか。

◎閉会の宣告

○委員長（広地紀彰君） それでは、委員会協議会これで終了といたします。

（午後 4時12分）